

会 議 名	第3回港区高校生世代の居場所づくりに関する検討委員会
開 催 日 時	令和6年7月25日（木）18時30分～20時10分
開 催 場 所	港区役所 9階 912会議室及びオンライン(Teams)
委 員	（出席者：参集） 文教大学人間科学部人間科学科准教授 青山 鉄兵 都立雪谷高等学校 石橋 哲也 公益財団法人児童育成協会健全育成事業部部長 佐野 真一 港区青少年委員会会長 芝 耕太郎 日本女子大学 匿名希望 公益社団法人東京青年会議所港区委員会副委員長 橋本 惇巨 私立広尾学園高等学校 福田 有佳 認定NPO法人3keys代表理事 森山 誉恵 都立六本木高等学校教員 吉谷 健也 子ども家庭支援部長 中島 博子 （出席者：オンライン） 私立広尾学園高等学校 廣實 真仁 私立大妻高等学校 松下 向日葵 （欠席者） 私立広尾学園高等学校 遠山 夏町
事 務 局	子ども家庭支援部子ども若者支援課 特定非営利活動法人 こども哲学・おとな哲学 アーダコーダ
会 議 次 第	<開会> 1 第2回港区高校生世代の居場所づくりに関する検討委員会の報告 2 （仮称）高校生世代の居場所ビジョンについて 3 今後の具体的な取組の検討方法等について 4 一人で過ごせる居場所づくり事業について 5 事務局からの連絡事項 <閉会>
配 付 資 料	資料1 （仮称）高校生世代の居場所ビジョンについて 資料2 今後の具体的な取組の検討方法等について 資料3 一人で過ごせる居場所づくり事業の検討について（案） 参考1 第2回港区高校生世代の居場所づくりに関する検討委員会（有識者）議事録 参考2 第2回港区高校生世代の居場所づくりに関する検討委員会（有識者）配布資料一式
会議の結果及び主要な発言	
委員長 委員J	<開会> 1 第2回港区高校生世代の居場所づくりに関する検討委員会の報告 委員Jから一言挨拶をお願いしたい。 高校二年生から居場所について研究をしている。周囲からどんな居場所があると良いかアンケートするうちに、高校生は賑やかな場所よりも個人スペースが確

	立されている静かな場所を望んでいるのではないかと考えた。実際にそのような居場所ができたらよいと考え、この委員会に参加している。
委員長 各有識者委員 委員長	有識者の委員は委員Jと初対面のため、名前だけの挨拶をお願いしたい。 (自己紹介) 本日、次第は5つあり、2番と4番がメインになると思う。 まずは高校生委員による検討委員会と有識者による検討委員会で話したことを共有したい。各副委員長より共有してもらう。
福田副委員長	有識者の検討委員会で、事務局から概要を報告されたと伺っているのので、概要のみとする。6月11日に開催された高校生世代の検討委員会において、居場所ビジョン作成にあたり、居場所に関する意見をKJ法により整理した。お互いの意見を尊重しながらも、活発な議論が行われ、非常に実りのある時間にできた。
委員長 中島副委員長	次に、有識者委員の共有をお願いしたい。 6月28日に開催された有識者委員の意見の要旨を伝える。まず、居場所ビジョンにおいて、その構成柱となるミッションとの関係性について委員間の認識を共有した。それぞれの事業を検討する上で、ミッションは色々な取組に関連し、重複する。既存の取組と今後検討する取組を包含する柱とする。ビジョンについては、高校生以降も想定する考えがあった一方で、大人が決めた枠組みでない方がよいのではないか、という意見もあった。このことについて高校生に意見を聞いてみたいという話になった。また、「一人でいられる場所」と「一人でもいられる場所」の違い、居場所に求める取組や機能の話では、「好きなこと」と「必要なこと」の違いについても意見が出た。今日はここから話を広げていきたい。
委員長	今までの話で何か確認しておきたいことはあるか。なければ次に進むがよいか。
各委員	(「なし」という者あり)
	2 (仮称)高校生世代の居場所ビジョンについて
委員長 事務局 委員長 委員G	では、資料1について、事務局から説明をお願いしたい。 (資料説明) なにか、感想、質問、確認等あるか。 補足だが、私たちの施設を利用する人は、シャワーやご飯などの必要なことを求めに来る。支援を受けたい、好きなことをしたい、という考えではない。また、誰か他の人を見かけると居場所と感じない子もいる。「色々な人がいる中、一人でいられる」と「一人でいるのが当たり前という空間」は別の意味を持つ。
委員長 委員D	どの視点からでもよいから、気づいたことがある人はどうぞ。 質問が2点ある。1点目は言葉の意味を聞きたい。「高校生世代の誰もが」という言葉は居場所のある人も無い人も皆が居場所のある状態をつくりたい、という意味か。それとも居場所の無い高校生世代の全てに居場所ができるようにするという意味か。
	2点目が、前回の議論において一つの居場所の中で二兎を追うものは一兎も得ずという話が出た。4つのミッションは、これは一つの居場所で4つ揃う居場所を目指すのか、中高生プラザ等と協力して、複数の場所で合わせて4つを目指すのか。
事務局	1点目について、居場所がある人もない人も含めて誰もがという言葉を使っている。2点目について、一か所で全て揃えるということではない。
委員長	色々な居場所が組み合わさり全体として実現していく、ということ。 なお、とても細かいが①の「自分の好きが出来る」は平仮名で「自分の好きができる」の方がよいのではないか。このような意見でもよいから他にないか。
	できれば高校生に意見を聞きたい。有識者の検討委員会において出た疑問、高校生世代という言い方でよいのかについてどう考えるか。
委員G	高校生世代というのは何歳から何歳くらいのことか。

委員 I	あまり年齢層を広げてしまうと施設に来たい子が来られなくなる。皆から意見を聞きたい。
青山委員長 事務局 委員長	まだ変わり得るということか。16～18 歳とも限らないのか。 思春期後期を想定しているため 14～20 歳。利用する子の発達程度による。 年齢を決めている訳ではないが、小学生の子ではなく思春期の子たち、つまり中高生だけでなく大学生や働いている人も含まれる可能性があるということ。中高生プラザには年齢制限があるか。
委員 A 委員長	18 歳まで。 高校生世代という言い方はどうか、有識者会議ではモヤモヤして終了した。また、高校生委員の意見で「ありのままの」という言葉がよく使用されていた。これは重要だが、逆に本当の自分は何かという悩みもあるため、「誰もがいつでも」という言い方がよいのではないか、という話も有識者会議で出た。このあたりについてどう思うか聞きたい。
委員 B	高校生世代という言い方はよくないと思う。友人に発達障害があるため高校に行っていない子がいる。他にもっとよい言い方があるのではないか。
委員 F	年齢の中で境界線はつくるべきではないと考える。中高生向けのイベントではよくアンダーエイティーン等の言い方をすることがある。この言い方に下限はないが、ユースという言葉よりはよい。
委員 D	今回中学生よりも高校生をターゲットにしたことについて、何か理由があるのか。
委員 I 委員 A 委員 D 委員長 委員 A	義務教育の中学生までは支援は多くあるが、高校生世代は少なくなる。 高校生になると受け皿が一気に減る。 中学生が来てはいけない訳ではないのか。 そうではなく、思春期なら来てよい。という考えである。
委員長	高校生世代という言い方は、児童福祉審議会で児童館ガイドラインをつくる時に大人が強引に決めたもの。違和感を持つ子は多いと考える。
委員 H	確かに高校に行くことが当たり前というニュアンスにはなってしまう。大人で夜間高校に行く人もいる。
委員 G	若者という言葉が独り歩きすると私たちが狙っているターゲットが来ないかもしれないからよく検討する必要がある。
委員長	年齢の区切り方の話をする。19・20 歳になると就職のことなど、家庭に縛られたくない、居場所がない、という悩みとは全く種類が異なるものが出てくる。また、高校生と比較して時間に余裕があるため、メインユーザーになる可能性がある。そこで自分の施設では泣く泣く 18 歳以降は高校在学者のみ、18 歳までは在学の有無に限らず利用できるようにしている。年齢で区切るときはこの点もよく検討する必要がある。
委員 G 委員長	次回はまた高校生と有識者で分かれて会議を行う。今日決めた柱に沿って具体的な中身の話をしていく。ビジョンの話は今日で終わらせたい。 その話がすなわち居場所の名前や対象になる訳ではないのか確認したい。 港区がどうしていくかを定めるスローガンのようなもの。先ほどの委員 B の話は現場が色々な人にもっと開かれていけば良いという話かもしれない。
委員 G 委員長 委員 D	区役所が何をするか決めるところの柱では的外れな話でなければよいことにする。 「10 代の」等、属性を決めてしまうよりかは「10 代後半の」「思春期の」という方が施策として優しい。 研究者によって思春期という言葉は 20 代も含まれる。 さすがに「思春期の」は広すぎるか。 「誰でも」という言葉を使うなら「思春期の」の方がより近い気がする。交流型ではないため多少年齢がバラついていても成立はする。年齢という入口が広い分にはよいかもしれない。

委員 J	中学生と高校生とでは過ごす場所は分けるべき。アンケートをとったとき、中学生は比較的賑やかな場所を好み、高校生は静かな場所を好んでいる傾向があることが分かった。 交流型で中高生が関わることがあったとしても、空間としては分けてほしい。現在のように、居場所を計画している段階ではどの世代に限定するかは決めておいた方がよい。
委員長	世代を年齢で区切るのは、学校で区切るよりはよいだろう。ゆるやかに「思春期世代」としつつ、委員 J の意見は運用の部分で取り込んでもよい。 中高生で、また 18 歳までとそれ以上ではニーズは異なるということは重要。置かれた状況によってのニーズの違いが、どの段階から生じるかが分かるような記録を残したい。どうすればよいか。
委員 D	ターゲットはあくまで高校生が持つような悩み。それに近い悩みを持つ人がいれば前後の年齢でも良い。
委員長	ビジョン上では高校生世代としているが、現場ではそうでない、より幅広い運用ができるよう話を進めていきたい。
委員 G	高校生世代に焦点を当てる事業は珍しいため、そこは大事にしたい。
委員 C	思春期後期という言葉はどうか。ハイティーン世代でもよいと考える。
委員 I	誘導のようになってしまうかもしれないが、区としては対象者を絞りたい。「思春期」よりは「高校生世代」の方が絞られている。あとは運用の中で受け入れていく。区は分かりやすく、を重視したい。
委員 C	「10 代後半」なら分かりやすくてよいのではないか。
委員長	区役所がつくる区のビジョンであるため、作成後に区が委員の意見を進めていきやすいようにまとめる必要がある。「10 代後半」は区として使いにくい言葉か。
事務局	使わない言葉ではない。
委員 G	18 歳以上に引っ張られやすい言葉ではある。就労支援等を連想されてしまうのではないか。
委員長	区が事業を進めていきやすくするためにも一旦は「高校生世代」という言葉は残しておくのはいかがか。
各委員	賛成。
委員長	ビジョンの中身等で他に気になるところはないか。
委員 J	自分はビジョン案として「ありのままの」という言葉を使った。その意図は 2 つある。自由度が高いとノーレッテルであること。前者について、学校や家庭は自由度が低い、将来何がしたいのか等自分探しを強いられている感じがする。もう少し選択肢が欲しいと考えた。後者について、固定された自分ではなく色々な自分がある。自分にとってノーレッテルでいられるのはカフェ。しかし、頻繁に行くとお金が掛かってしまう。そのためより利用しやすい環境があるとよいと考えた。
委員長	それらについては有識者会議でも話が出たため、共通理解としてあるが、「誰もがいつでも安心できる居場所」だとその要素が足りなく感じるか。
委員 J	はい。
委員 F	「ありのままの」に代替できそうな言葉を 3 つ考えた。「自然体」「一番楽な状態」「飾らない」
委員長	有識者会議では「ありのままの」という言葉は使わなくてよいとなったが、それほど縛られるニュアンスがなければ、復活もあり得る。
委員 B	高校生世代に「ありのまま」はないのではないか。本当の自分が何かは自分でも分かっていない。家庭や学校でも他人にレッテルを貼られた「らしさ」はあるが自分では決めてないし、分かっていない。自分の様子は場所によって異なる。
委員 A	そうすると「飾らない」がよいか。
委員 B	それが最も身体的にも精神的にも楽。しかし、飾らないことが本当に高校生にできるのかは疑問。やりたくてもできないかも。そのため「飾らない」も少し違

	う感じがする。
委員D	何かを強要されている感じがする。「ありのまま」と言われても、ありのままではないといけないのかと考えてしまう。「いつでも」も強要感がある。「いつでも安心」と言われても「いつ安心するかは自分で決める」と考える。「気軽に」等、強要感から離れた言葉を使うのはどうか。
委員G	「安心できる」に強要を感じる人もいるかも。
委員D	強要から離れることを求めているはず。
委員G	それで有識者会議では「どんな自分でも」になった。
委員J	確かに「ありのままの」には強要されている感じはする。
委員長	「いつでも」はどうか。外すべきか。
委員J	ずっと安心してなくてはならないのも息苦しい。
委員G	研究者によると思春期は複数の顔を持っていることが普通。いくつ自分があってもよい。「いつでも」に代える言葉なら色々な、又は多様な自分というニュアンスを入れたい。
委員F	好きな自分でいられる、心地よい自分でいられる、であれば「安心」から強要感を除いた言葉として代替できるのではないか。
委員A	「そのままの自分」はいかがか。
委員F	それだと「ありのままの自分」と大差ない。
委員D	ずっとではなくて、楽でいられる時間をつくれるという言い方にしてはいかがか。
委員長	そうすると居場所という言葉を使わないことになる。
委員C	そこに来れば、楽でいられるのは大切、ずっとでなくてもよい。
委員長	以上を踏まえると、最もシンプルなのが「いつでも」を外す。より適切な言葉が見つければそれを加えるということ。
	今後自分と事務局で皆から出た案を考慮し、皆へ知らせるという形でよいか。
事務局	はい。
委員長	結局「いつでも」を外すだけになるかもしれないが、皆も何かよい案があれば知らせるようお願いしたい。
委員A	好きな自分、楽な自分だけでなく、嫌な自分が出せるのも大切。
事務局	「多様な自分でいられる居場所」は、よいと考える。今後委員長と意見をすり合わせる。
委員長	「安心」は取り除いてよいか。
委員C	安心するために来るわけではないから取り除いてもよい。
委員I	委員Fの「心地よい」は安心につながるし、自分らしく気持ちよく過ごすのにいい言葉だと考える。
委員C	「心地よい」だけかと考えてしまう。極論だが自分を戒めに来る場所かもしれない。修飾語は省いて「自分でいられる場所」はどうか。
事務局	「安心」というワードは残したい。行政が整備する場所としては安全・安心。自分を追い込むような場所は区が整備する場所ではない。
委員D	高校生の話を聞いていて、「自然体」や「素」等、内から出てくるニュアンスを入れたいのかと考える。
委員長	逆にそれらを持たないで生きている人もいる、という話にはならないか。
委員H	「安心」という言葉がある方が困っている高校生は来るのではないか。
委員長	ビジョンのテーマを見て来る子は少ない。区が事業をしやすいよう配慮はしつつ、「安心」「居心地がいい」「素」「自然体」当たりの言葉をどう組み合わせるか、どう削ぐかが候補になるだろう。
	3 今後の具体的な取組の検討方法について
委員長	事務局に資料2と3の説明をお願いしたい。
事務局	(資料説明)

委員長	資料2は今後の予定のため、確認程度にしておく。
委員長	4 一人で過ごせる居場所づくり事業について 具体的には今後の検討委員会で話し合うが、その前に確認しておくべきことを話す。家庭にも居場所がない等多様なニーズがある子が来ることが想定される。表向きは誰でも来てよいことにするが、一人でいることが本当に必要な子たちに向けてつくる。方針についていかがか。
委員G	高校生委員に聞きたい。中高生プラザ内に一人でいられる場所があればよいが、それとも明確に分けてほしいか。
委員B	分けた方がよい。自分がよく行く赤坂子ども中高生プラザにも一人でいられる場所はある。カラオケ、ゲーム、Wi-Fiもあり、寝ることもできる。しかし、徐々に集団で利用する人が増えてきた。そうすると一人で入りにくくなる。
委員J	自分は個別ブースがなくても、干渉しないというルールがあればよいと考える。福祉を目的とした大人に話しかけられたくない子も多い。
委員長 事務局	「支援」ではなく一人でいられる場所をつくるのが目的だから大切な意見。 「支援」ではないが、相談したいときに相談相手がいる等、自分たちの方から話してみようかなと思えるくらいの距離感でいる大人がいるとよいと考えている。
委員長 委員E	必要なときには「支援」にアクセスできる道も残しておく。 小学生の時は中高生プラザへ頻繁に行っていた。職員との距離が近く楽しかった。中学生になり行かない期間が少しあった。その間に職員の入れ替えにより、新しい職員が別の子と信頼関係を構築していて、アウェイな感じがした。一人の空間を中高生プラザにつくるとしても、周囲の声が聞こえると落ち着かない。
委員長	まとめに入る。4本柱については皆に承認してもらえたと考える。 4回目・5回目の検討委員会は、非交流型と呼んでいた居場所の在り方は、交流しない前提、多様なニーズがある子が来ることが想定されるが、表向きは誰でも来てよい、という見え方にする。これらをベースに今後の検討委員会で話し合う。
事務局	5 事務局からの連絡 ① 追加で意見があれば事務局へメールをお願いしたい ② 次回の検討委員会は、高校生世代が8月2日、詳細を今後連絡する ③ 視察について、委員Gが運営している施設を見学させてもらう。およそ1時間半。希望する方はメールで事務局への連絡をお願いする。
<閉会>	